



★ 東京ガス
 ● 特価 ¥2,600 以下 (税込)
 (月曜 ¥2,700 × 10 ヵ月)
ガス自動炊飯器

東京ガスグループ 創立140周年記念

「越えていく140年の炎とくらし」
**炊飯がつなぐ
 日本の食文化**

9/27 土
 ▼
 12/25 木

ガスミュージアム
GAS MUSEUM がす資料館
 10:00 - 17:00 入場無料 月曜休館
 10/13・11/3・11/24 (月・祝振休) は開館、10/14・11/4・11/25 (火) は休館
 ガスミュージアム「ガス灯館」2階ギャラリー



本年10月1日に、東京ガスは設立から140年を迎えます。日本で初めて灯ったガスの炎は、市中の街灯から始まり、室内灯への利用へと広がりました。電気との照明分野での競争のなか、明治30年代には調理用の熱源としての利用へと拡大していきます。

東京ガスは、熱源利用のために当初は海外から輸入した調理器具を販売・紹介しました。しかし、輸入品は高価で使い勝手も悪く、暮らしに受け入れられにくかったことから、調理用熱源の普及はなかなか進みませんでした。

そこで当時の生活様式に受け入れやすく、手ごろな価格のガス器具の提供に東京ガスが取り組み、明治35年(1902)に開発されたのが「瓦斯竈」です。広告や書籍での紹介もあり、調理用熱源としての利用は大正時代に入ると、暖房や給湯などの用途へと広がりました。さらに昭和初期にはさまざまな国産ガス器具が登場し、都市部では熱源としてのガス利用が普及、炊飯利用が調理の重要な柱となりました。

戦後の昭和30年(1955)に自動式電気炊飯釜(電気炊飯器)が登場したことで、ガス自動炊飯器の開発が促され、以後炊飯分野での競争が始まりました。しかし、昭和47年(1972)にジャー機能を搭載した電気炊飯器が登場すると、炊いたご飯を長時間一台の

製品で保温できる利点が受け入れられ、電気炊飯器が広く普及していきます。

一方でガス炊飯器はセンサーやマイコンをはじめとした電子部品を採用し、ガスの火力を生かした製品へと進化していきます。現在では搭載したセンサーを活用し、コンロ上で食事ごとに炊飯を行うなど、土鍋をはじめとしたさまざまな調理器具とガスの火力を組み合わせた炊飯の利便性が紹介されています。

今回の展示では、東京ガスグループ誕生140年の歴史を振り返る中で、明治35年(1902)に誕生した「瓦斯竈」から120年以上にわたり私たちの暮らしの中で活用されてきたガス炊飯の歩みを紹介し、ガスの炎と私たちの暮らしとの関わりについてお伝えします。さらに、炊飯と日本人の生活との結びつきを紹介するため、株式会社プレナス米食文化研究所様のご協力をいただくとともに、明治5年(1872)の書籍『西洋料理指南』に西洋料理として紹介され、その後各年代を経て日本の食生活に受け入れられていった「カレーライス」の姿を、株式会社村屋様からご提供いただいた資料とともに紹介します。これにより、各年代の雰囲気を感じていただき、炊飯とガスの炎がもたらす暮らしの豊かさについてお伝えしたいと考えています。

「越えていく140年の炎とくらしー」

炊飯がつなぐ日本の食文化

9/27土 12/25木

10/13・11/3・11/24(月・祝振休)は開館
10/14・11/4・11/25(火)は休館



瓦斯竈 特許証
東京ガス(株) 明治35年(1902)



引札 たった一本のマッチで
東京ガス(株) 明治30年代



ガス炊飯器 直火匠
平成24年(2012)



ガスコンロによる土鍋炊飯風景
令和7年(2025) 画像提供:伊賀焼窯元 長谷園

- 表(左上から):
 写真 庶民的瓦斯台所 東京ガス(株)カタログより 明治43年(1910)
 摺物 明治37年正月(部分) 東京ガス(株) 明治37年(1904)
 ガスによる土鍋炊飯と炊きたてご飯 令和7年(2025)
 東京名所之内
 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図 歌川広重(三代) 明治15年(1882)
 タツミガス自動炊飯器 昭和32年(1957)
 ポスター 新米をおいしく炊く 昭和35年(1960)
 四升炊きガスかまど 大正時代
 ガスカまど利用風景 カタログ「お台所の菜」より 昭和12年(1937)
 ガスコンロによる炊飯風景 令和7年(2025)

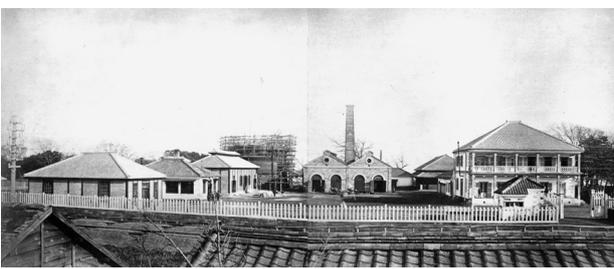


写真 東京府瓦斯局全景
明治11年(1878)頃

参加費無料

親子で学ぶ お米のワークショップ 開催!

共催: Plenus米食文化研究所

2025/10/18 土 (1) 10:30~11:30 (2) 14:30~15:30

- 講師: たにりり氏 (ごはんソムリエ/農政ジャーナリスト)
- 対象: 小学校高学年と保護者
- 定員: 各回 親子10組
- 申込: Plenus 米食文化研究所 及び ガスミュージアムのホームページ・Instagramをご確認下さい

GAS MUSEUM がす資料館

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25
 TEL 042-342-1715
 開館時間 10:00 - 17:00
 月曜休館 入場無料



公式Instagram @gas.museum

<https://www.gasmuseum.jp/>

バス 西武池袋線 東久留米駅西口より[武21]錦城高校前経由...武蔵小金井駅行き 西武バス「ガスミュージアム入口」バス停下車徒歩約3分
 西武新宿線 花小金井駅北口「花小金井駅入口」バス停より、またはJR中央線 武蔵小金井駅北口より[武21]錦城高校経由...東久留米駅西口行き 西武バス「ガスミュージアム入口」バス停下車徒歩約3分
徒歩 西武新宿線 小平駅より徒歩約20分(2km)
車 新青梅街道 滝山南交差点角 ※駐車場無料

